

フォーリン・スタディーズは、
外国語を学ぶだけでは
ないのですか？

上智の外国語学部は外国語をマスターすることが目的ではない、と言ったら、驚かれるでしょうか。英文表記で Faculty of Foreign Studies というようにその対象は、外国の言語ではなく私たち日本人には他者である「外国」そのものです。つまり外国語学部は「外国の言葉を」学ぶというよりも「外国について言葉を通じて」学ぶところ、と考えてください。

しかし、だからこそ、言葉の訓練を徹底的に行います。集中して鍛えた複数の言語を運用する能力は、一生使い込んでいける道具になりうるからです。その上でその言語圏の文化、政治、経済、国際関係なども学び、自分の専攻分野を絞り込んでいく。たとえば私の場合は、学部時代にイスパニア語を学び、その言語圏に属するメキシコ経済を研究し始めました。もちろん、文学や言語学、社会学、歴史学などをテーマにする人もいます。どんな道を進むにせよ、言語とそれを通じて学び取った物事を相対的に見る力は、ゆるぎない土台として人生を支えていってくれるはずです。

グローバリゼーションとは単純に世界がひとつになるということではなく、人間一人ひとりが今までより広く、そして深く世界と結びつくことです。この現象に受動的ではなく主体的に関わるためには複数の言語運用能力が大きな武器になることは言うまでもありません。

外国語学部長 イスパニア語学科教授
谷 洋之 Hiroyuki Tani

メキシコの経済史・経済政策を中心にラテンアメリカ経済を専攻。主に、北米自由貿易協定 (NAFTA) の下におけるメキシコ農業部門の新展開に関する研究、およびメキシコ革命体制下における国民経済建設構想の再構成に係わる研究に取り組んでいる。基礎教育に関しては、ラテンアメリカ経済論とイスパニア語を担当。

外国語学部



「ことば」を中心に据えた学問で「知」を切り開く

外国語学部とは Faculty of Foreign Studies、直訳すれば外国研究学部です。実践的な「ことば」のトレーニングによって体得した外国語運用能力を武器に、グローバル社会が求める新しい「知」を切り開きます。また、日本人としての自覚と世界への深い理解を持ち、地域研究で身に付けた立体的な視野を備えた国際人を養成します。

言語運用能力と専門分野の融合で多角的な研究を行う

単なる「語学」ではなく、的確な運用能力を駆使してその言語が使われている国や地域の社会・政治・経済・文化を学び、さらにはグローバルな問題とも関連づけてその知識を掘り下げていくことを重視しています。そのため学生は、2年次秋学期末に9つの「研究コース」から1つを選択・登録し、自分の関心領域に関する専門研究を推進していきます。これを通じて、知識の獲得だけでなく、ものごとから問題を発見する能力、そしてそれを解決する能力を養うことを目指します。



ラ米経済特論A

英語学科

設置年:1958年
 学生総数:811人(男性:203人/女性:608人)
 教員総数:18人/嘱託教員:3人

実践的な英語力と幅広い教養を身に付けた 世界に羽ばたく人材を養成する

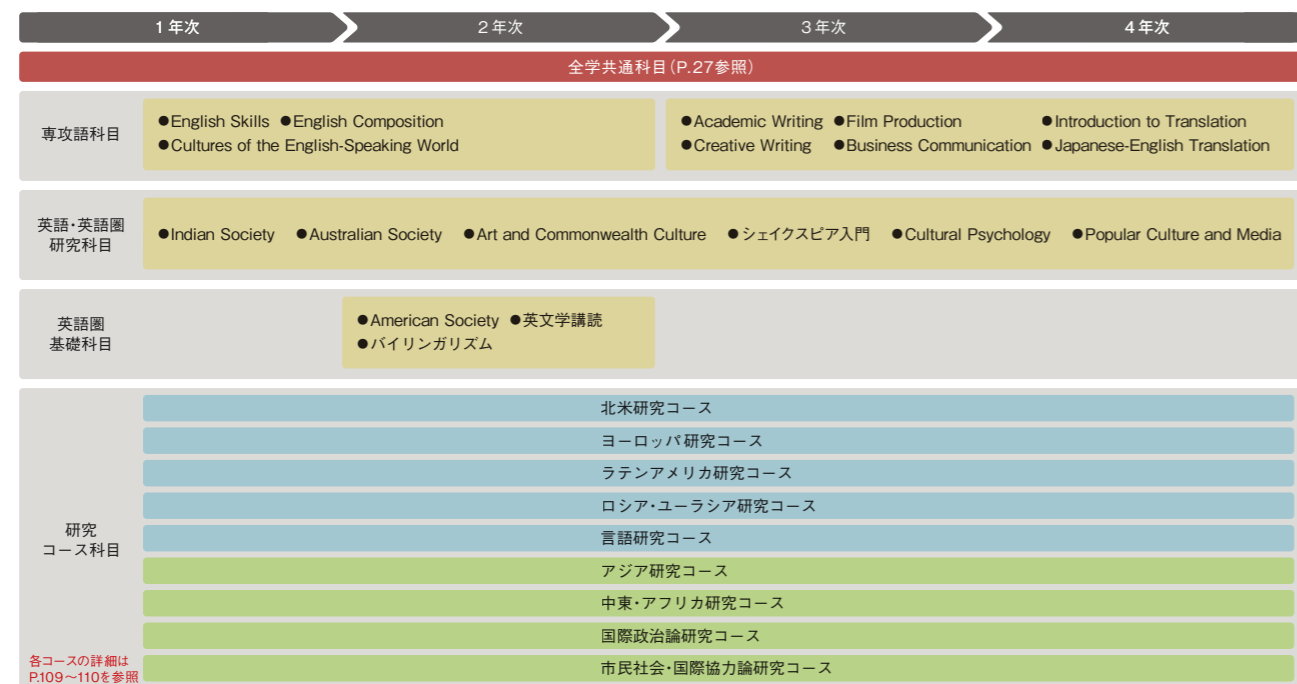
教育方針

英語学科が創立以来半世紀以上に渡り教育上の使命としてきたのは、「学生たちに実践的な英語力と幅広い教養を身に付けさせ、世界中どのような場所でも活躍できる人材として社会に送り出すこと」でした。時代とともに世界は大きく変わりましたが、我々の使命は今も変わっていません。急速に進展する地球化の流れの中で、卓越した英語力養成と幅

広い教養教育という教育の2本の柱を、我々はさらに一層たく強固なものにしています。特に教養教育については、幅広いだけでなく、より深い専門性を持った人材育成を目指して9つの研究コースを用意しています。この学科で学んだ卒業生たちは多種多様な分野に進み、世界のあちこちで活躍しています。



「英米文化入門」マイケル・ミルワード 教授担当



英語学科オリジナルwebサイト: dept.sophia.ac.jp/fs/english/

カリキュラムの特徴・履修科目

外国語学部の学生は2つの「専攻」を履修します。英語学科の学生は「第一主専攻」として英語の4技能(読む・書く・聴く・話す)を集中的に鍛え上げる「専攻語科目」や、英語圏の文化や歴史を学ぶ「英語圏基礎科目」「英語・英語圏研究科目」を履修します。「第二主専攻」ではそれぞれの関心に合わせて9つの「研究コース」(左頁下)の中から一つを選び、体系的に専門分野の学習と研究ができます。また、多くの学生が数週間程度の短期留学制度あるいは半年から1年間の交換留学制度を利用して海外経験を深めます。単位認定制度により1年間留学しても4年間で卒業することが可能です。

科目紹介

◎専攻語科目

English Skills

読む、聴く、書く、話す、という英語の4技能の能力を総合的に訓練します。

Film Production・Screenplay Writing for Movies

プロの映画監督・脚本家として活躍中の教員が映画製作や脚本執筆を直接指導する非常に刺激的な授業です。

◎英語圏基礎科目

英文学講読

英文学の作品を精読することを通して、英語を緻密に読む訓練をするとともに、作品の書かれた時代背景について学び、「人間とは何か」という普遍的な問題について考えます。

◎英語・英語圏研究科目

Cultural Psychology

Cultural Psychologyは、心理学の実験などを通して、個人や集団における文化差を解明していく面白い分野です。日本人とアメリカ人は心理学的にどう違うのか?といった疑問に答えてくれます。

英語と社会

毎回さまざまな分野で活躍する英語学科の卒業生たちを講師に招き、それぞれの人生の軌跡、職歴、現在の仕事や職場、業界等について聴くキャリア教育の授業です。

教員・研究分野

※は嘱託講師

教授 石井 紀子
 日米関係史、アメリカ女性史、アメリカ社会史

教授 石川 彰
 語彙意味論、コミュニケーション英文法

教授 和泉 伸一
 第2言語習得研究、英語教育、フォーカス・オン・フォーム

教授 小塩 和人
 歴史学(環境・公共政策)

教授 笠島 準一
 応用言語学

教授 ケネス・オキモト
 アメリカン・メディア

教授 坂本 光代
 社会文化理論と言語習得、マイノリティ教育、バイリンガル教育

教授 篠原 茂子
 音韻論、音声学

教授 東郷 公徳
 英文学(シェイクスピア)

教授 フランシス・ブリット
 英語学、言語テスト、社会言語学、インド社会。情報学基礎、ソフトウェアなど

教授 マイケル・ジャックス
 オーストラリア研究

教授 マイケル・ミルワード
 英作文、テストの評価法

准教授 出口 真紀子
 文化心理学

准教授 飯島 真里子
 グローバルヒストリー、移民史

准教授 小川 公代
 英文学(近代イギリス小説)、映画論

准教授 ジョン・ウィリアムス
 映画製作、ヨーロッパ映画

准教授 リサ・フェアブラザー
 異文化間インターアクション、社会言語学

講師 スーザン・エドワーズ ※
 応用言語学

講師 マーク・カウフマン ※
 文学創作、現代文学

講師 ガブリエル・ビギン ※
 クリティカル応用言語学、カルチュラル・スタディーズ

助教 タカミ・ニエダ
 作文修辞法、アメリカ多民族文学、メディア論、翻訳

FAQ

Q. 帰国生や留学経験者でなくても大丈夫ですか?

A. 大丈夫です。実際には半分近くの学生は海外体験が1年未満です。1・2年次の必修クラスは入学時のリスニング試験の結果により3段階に分けられます。それにより各学生が無理なく学べるように工夫されています。入学前には全く海外体験のなかった多くの卒業生が世界中で活躍しています。

高校生だった私への手紙

増まゆは(2014年卒業)

高校3年生の夏にオープンキャンパスに足を運び、直感で現在の所属学科の受験を決めました。4年が経ち卒業した今、その決断は間違っていなかったと自信を持って言えます。英語学科という名称から「英語を勉強する」というイメージを抱いているかと思いますが、自らの興味に合わせ、選べる授業が数多くあり、ここで学べることは「英語」を遥かに上回るものです。何をどこまで追及するかは自身の判断に任されており、その中で先生方は学生のモチベーションを上げる授業をして下さり、学ぶ意欲のある学生には惜しみないサポートをして下さいます。そのため入学して暫くしてから「勉強を強制されるのが嫌い、けれど興味のある分野に関しては喜んで勉強する」私にこの学科はとても向いていると気付きました。最後に、大学合格はゴールではなく、4年間で何を達成するかが重要なのだということを忘れないで欲しいです。また、努力は必ず報われるので、精一杯頑張ってください!

ドイツ語学科

設置年:1958年
 学生総数:274人(男性:80人/女性:194人)
 教員総数:9人/嘱託教員:1人

言語の運用能力を総合的に高める語学指導と 多彩な地域研究から“ドイツの現在”に迫る



「ドイツ語Ib-c」アンゲラ・リプスキ 教授担当

教育方針

ドイツ語学科では、ネイティブの教員と日本人教員が連携し、集中的かつ効率的なドイツ語教育を実践しています。1年次よりドイツで出版されている教科書を使用し、コミュニケーション重視の言語教育を行っていきます。それとともに、ドイツ語圏の言語・思想、政治・社会・メディアについての授業も提供し、ドイツ語圏の文化や価値観、思考方法などを理解・共有できる能力を修得してもらいます。ドイツ語や地域研究の専門家を養成するだけでなく、高いコミュニケーション能力と専門的知見・方法論を兼ね備え、国際社会で活躍できる人材を育成することが、本学科の目標です。

カリキュラムの特徴・履修科目

この目標を達成するためのプログラムの中で特筆すべきは、在外履修という制度です。この制度によって、原則として全員がドイツで半年間、勉強できることになっています。その他にも交換留学の制度もありますので、ドイツ語を修得し、ドイツ文化を経験する数多くの機会があることになります。この在外履修や交換留学を実り豊かなものにするために、1年次と2年次の春学期にこれまでよりも集中的にドイツ語を学習することになります。また、ドイツの大学と上智大学ドイツ語学科との協定により、毎年多くのドイツ人学生が

	1年次	2年次	3年次	4年次
専攻語科目	●基礎ドイツ語 I a-b	●基礎ドイツ語 II a-b	●ドイツ語Ⅲ口頭表現A・B・C ●ドイツ語Ⅲ聴解A・B・C	●専門読解準備コース言語A・B ●専門読解準備コース思想・文化A・B ●専門読解準備コース政治・社会A・B
ドイツ語圏基礎科目	●ドイツ語圏研究A ●ドイツ語圏研究B	●ドイツ語圏研究C ●ドイツ語圏研究D		
研究コース科目	北米研究コース	ヨーロッパ研究コース	ラテンアメリカ研究コース	ロシア・ユーラシア研究コース
	言語研究コース	アジア研究コース	中東・アフリカ研究コース	国際政治論研究コース
				市民社会・国際協力論研究コース

各コースの詳細はP.109~110を参照

■必修科目 ■主に外国語学部の開講科目によって構成 ■主に総合グローバル学部の開講科目によって構成

※科目の詳細については、上智大学Webサイトのシラバスをご覧ください。

ドイツ語学科オリジナルWebサイト: dept.sophia.ac.jp/fs/german/

ドイツ語学科にやってきましたので、ドイツ語学科の学生は在外履修を終えた後も、ドイツ人と共に学び、ドイツ人と議論をし、文化や価値観の違いを体験でき、国際社会で活躍するための能力を磨くことができます。

科目紹介

◎専攻語科目

基礎ドイツ語Ia

ドイツ語の初級文法を身につけることを目標としています。練習問題を数多くこなし、実践的な文法力を修得してもらいます。

基礎ドイツ語Ib

日本人とネイティブが交代で授業を担当し、会話、聴解、作文の総合的な言語能力を修得してもらいます。

基礎ドイツ語IIa

ドイツ語の文法事項を幅広く扱っていきます。中・上級レベルの文法事項を導入すると共に諸項目間の関連性を体系的に整理します。

ドイツ語IIb

日本人とネイティブが交代で授業を担当し、話し言葉、書き言葉の両面に渡って中級レベルの総合的なドイツ語力を養っていきます。

ドイツ語III口頭表現

プレゼンテーションやディスカッションを中心にして、口頭表現能力、コミュニケーション能力の向上を目的としています。

ドイツ語III聴解

ビデオ教材、ラジオ、インターネット等を利用して、ドイツ語の聴解力の向上を目指します。

専門読解準備コース

研究に取り組むのに必要な語彙や文体に慣れてもらうため、比較的簡単な学術的テキストを丁寧に読んでいきます。

◎ドイツ語圏基礎科目

ドイツ語圏研究A

ドイツ語圏の政治・経済・社会について、日本との比較を意識しながら、学んでいきます。あわせてレポートの書き方も学びます。

ドイツ語圏研究B

ドイツ語圏の文化・歴史・思想について、日本との比較を意識しながら、学んでいきます。あわせて論文の書き方も学びます。

ドイツ語圏研究C

ドイツ語圏に留学するにあたって必要な知識を身につけてもらいます。文化や習慣の相違とその影響を学んでいきます。

ドイツ語圏研究D

学科教員が各自の専門分野について初歩的な解説を行った上で、ドイツ語やドイツ語圏に関係する具体的な諸問題を論じていきます。

教員・研究分野

※は嘱託講師

教授 浅見 昇吾
 ドイツの現代思想に基づく生命倫理の研究

教授 アンゲラ・リプスキ
 ドイツ語教育:文法、誤答分析、言語学

教授 河崎 健
 ドイツ政治学:ドイツの政党政治

教授 高橋 由美子
 ドイツ語学、意味論、語用論、説教話などのテキスト分析

教授 永田 ザビーネ
 時事ドイツ語:メディアと民主化

教授 新倉 真矢子
 ドイツ音韻論、音声リズムにおける「らしさ」の解明

教授 ライノルト・オプヒュルス鹿島
 ドイツ現代文化研究(ディスクール分析):ヨーロッパ映画と大衆文化

教授 木村 護郎クリストフ
 ヨーロッパ言語社会論、ドイツ語圏社会研究

准教授 高橋 亮介
 理論言語学:ドイツ語を対象とした語彙意味的研究

講師 マティアス・ビティヒ ※
 日独文化比較

FAQ

Q. ドイツ語を学ぶおもしろさは何ですか。

A. ドイツはEUの中心的存在ですので、ドイツ語を学べばEUのことがよくわかり、ひいてはグローバリズムのことも学べます。またドイツはゲーテ、ベートーヴェン、ニーチェ等のヨーロッパを代表する芸術家や思想家を輩出していますので、ドイツ語を学べばヨーロッパ文化を深く理解できるようになります。さらに、ドイツ語を学べば、日本語との相違に触発され、自分の言語表現を反省するようになります。ドイツ語はその言語構造から、話者の思考を厳密に表現できるといわれることすらあります。ドイツ語を学べば自分の思考を鍛えることになるでしょう。このように多くの世界に通じているところに、ドイツ語のおもしろさがあります。

Q. ドイツと日本は似ているといわれますが、似ている点は何ですか。

A. 敗戦による疲弊した社会状況から技術力で国を興してきた歴史、勤勉といわれる国民性、信頼を重視した人間関係等です。

高校生だった私への手紙

✉ 小林 伸行(3年)

今、君は高3の夏でサッカー部をちょうど引退した頃でしょう。部活をやっている間は勉強との両立が大変だったと思いますが、これからはもう勉強一本に集中できますね。しかし周りの友達は今、早く部活を引退し受験勉強で大きくリードしていて、君は早く追いつこうと焦っているかもしれません。ですが、全く焦る必要はありません。受験は自分との戦い。多少他の人より遅くから始めたって、妥協せずに努力を継続させることができれば大丈夫。"これだけ勉強したんだからきっと大丈夫"と自信を持てるくらい頑張ることができれば、必ず結果はついてくるはず。その結果が第一志望校じゃなかったとしても、その時君は後悔しないはず。

上智大学は、もちろん君の目指す志望校の一つでしょう。上智大学の魅力の一つを挙げるなら、"人の良さ"かな。上智の友達は皆それぞれ違いはあれど、芯があって、考えながら生活しています。そんな人達と一緒に生活していると、自然と自分も頑張らなきゃとやる気が湧いてきます。受験で志望校に合格することは、ある意味ゴールと言えるかもしれませんが、それは大人になる道へのスタートでもあります。大学に入ってから、君は将来の為にさまざまな事に挑戦できると思います。そんな環境が上智には整っていますよ。遠くに見える希望を糧に、まずは近い目の事に集中して、最後まで頑張って下さい。

フランス語学科

設置年: 1958年
学生総数: 362人(男性: 69人/女性: 293人)
教員総数: 9人

フランス語圏の研究を通して、 現代社会の多元文化構造を理解する

教育方針

フランスはEU域内で中心的な存在であり、世界の主要国の一つです。フランス語が使用される地域=「フランス語圏」は、世界で二番目に多くの国や地域にまたがって広がっているのです。フランス語学科では、高いフランス語能力を養成し、これを基盤としてフランスやフランス語圏を総合的に学ぶためのプログラムを提供します。思想、哲学、言語学、社会学、宗教学、政治学、歴史学、文学などを専門とするフランス

語学科の教員が、外国語学部設置されるさまざまな研究コースで開講する専門講義や演習で、専門的な知識や研究のための方法論の獲得、またフランスはもちろん、世界に広がるフランス語圏地域への多角的で深い理解を促します。以上を通して、国際的な舞台で活躍するために欠くことのできない高い教養を養うことを目的としています。



「フランス語基礎Ⅱ-2」ミュリエル・ジョリヴェ 教授担当

	1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目 (P.27参照)				
専攻語科目	●基礎フランス語Ⅰ-1 ●基礎フランス語Ⅰ-2	●基礎フランス語Ⅱ-1 ●基礎フランス語Ⅱ-2	●表現演習Ⅲ ●聴解演習Ⅲ ●講読演習Ⅲ	●総合演習Ⅳ ●特別演習S
フランス語圏基礎科目	●フランス語圏研究基礎A(歴史と文化) ●フランス語圏研究基礎B(政治と宗教) ●フランス語圏研究基礎C(社会と経済) ●フランス語圏研究基礎D(総論)			
研究コース科目	北米研究コース ヨーロッパ研究コース ラテンアメリカ研究コース ロシア・ユーラシア研究コース 言語研究コース アジア研究コース 中東・アフリカ研究コース 国際政治論研究コース 市民社会・国際協力論研究コース			

■必修科目 ■主に外国語学部の開講科目によって構成 ■主に総合グローバル学部の開講科目によって構成 ※科目の詳細については、上智大学Webサイトのシラバスをご覧ください。

フランス語学科オリジナルwebサイト: dept.sophia.ac.jp/fs/french/
(Facebookのページも開設しています。上記サイト参照。Twitter@SOPHIAETUDESFRでも質問等を受け付けます。)

カリキュラムの特徴・履修科目

1・2年次では、フランス語の4技能(読む・書く・聴く・話す)を徹底して学びます。3・4年次にはフランス語のより実践的な運用能力を身に付けます。またフランス語圏基礎科目では、フランスやフランス語圏の国や地域における政治、社会、思想、歴史、文化などを広く、深く学びます。さらに学科生は、自らの関心に基づき、左頁に図示される多様な研究コースの中から一つを選び、基礎から発展へ体系的に知識を積み重ね、専門研究を行い、卒業論文・卒業研究に結実させます。



科目紹介

◎専攻語科目

基礎フランス語Ⅰ

1コマ90分、週6コマの授業を日本人とネイティブの教員で協力して行っています。コミュニケーションパートと文法パートに分かれ、特にコミュニケーションパートは細かくクラス分けをし、密度の濃い内容を実施しています。

基礎フランス語Ⅱ

1コマ90分、週6コマの授業を日本人とネイティブの教員で協力して行っています。コミュニケーションパートと「専門研究へのフランス語」パートに分かれていて、特にコミュニケーションパートは細かくクラス分けをしています。また「専門研究へのフランス語」では、3・4年次に本格的になる専門研究に資するよう、各教員が宗教学、社会学、言語学、歴史学など専門分野の入門的要素を含む教材を使い、フランス語力の総合的な強化をはかります。

総合フランス語科目

表現演習、聴解演習、講読演習など、それぞれフランス語の4技能を集約的に強化することを目的とした豊富な科目群からなります。4年次には、総合的なフランス語運用能力の強化をはかる「総合演習」や最上級者向けの「特別演習」といった科目も用意されています。

◎フランス語圏基礎科目

フランス語圏研究基礎A(歴史と文化)

1年次春学期に履修します。中世・近世から近現代にいたるフランスの歴史を、政治、社会、文化、言語の各側面から学び、同時になぜ広大な地域にフランス語圏が広がっていったのか、その歴史と現在について学びます。

フランス語圏研究基礎B(政治と宗教)

1年次秋学期に履修します。春学期に学んだフランス語圏に関する広い知識を基盤として、この授業ではより具体的に、近現代フランスの政治構造や制度、また現在のフランスでもきわめて重要なトピックとなっている宗教を巡る諸問題について学び、考えます。

フランス語圏研究基礎C(社会と経済)

2年次春学期に履修します。1年次に学んだ歴史や文化、政治や宗教に関する知識をベースとして、今度は現代フランスやフランス語圏の社会、つまり家族やジェンダー、移民、労働、貧困、社会保障といったトピックを取り上げて学びます。

フランス語圏研究基礎D(総論)

2年次秋学期に履修します。1年次からのフランスやフランス語圏に関する知識や考察の積み重ねを基盤とした上で、この授業では、フランス語学科の複数の教員が輪講形式で、各自の専門研究の魅力をわかりやすく伝え、3・4年次に学生がそれぞれの研究を行うための導入をはかります。

教員・研究分野

教授 岩崎 えり奈
北アフリカ社会経済

教授 エルヴェ・クシヨ
フランス思想、フランス哲学

教授 ミュリエル・ジョリヴェ
社会学と家族、移民問題

教授 原田 早苗
フランス語教授法、応用言語学

教授 福崎 裕子
フランス文学、日仏同時通訳

教授 水林 章
17~19世紀前半のフランス文学、思想、文化、社会的変容を研究

准教授 高橋 暁生
フランス近現代史(フランス革命史、フランス植民地主義の歴史)

准教授 伊達 聖伸
フランス、ヨーロッパ、カナダにおける政治と宗教

准教授 シモン・テュシェ
日仏対照言語学

FAQ

Q. 留学について教えてください。

A. フランスやカナダ、ベルギーなどに留学する学生は毎年20~30人ほどいます。フランス語圏にある交換留学協定校のほか、私費留学や学外のスピーチ・コンテスト、ロータリーなどの各種の留学生試験を受け、奨学金を得て留学するケース、短期の留学制度を利用するケースもあります。単位を認定して4年間で卒業することもできます。

Q. フランス語学科とフランス文学科の違いは何ですか。

A. 両学科ともフランス語の習得を土台にしていますが、フランス語学科では、文学以外の分野や領域(政治、経済、歴史、社会、文化、芸術等)も学習・研究の対象になります。

高校生だった私への手紙

山本 将寛(3年)

高校生の自分へ
元気にしているかい？高校では水泳をやっていたね。文化祭が僕たちにとって卒部であるから、周りが受験勉強に専念しているなか、毎日部活に打ち込むのはとても不安だよ。でもね、もちろん受験勉強も大事だけど、今しかできないことはたくさんあります。欲張りな君はやらなきゃいけないこと、やりたいこと、どちらも犠牲にせずに精一杯努力していたね。それは間違いじゃないよ。大学に入って、高校でああしておけばよかったという話はたくさん聞きます。そのときしか経験できない青春を逃してしまったら一生後悔することになる。だから今、自分がやるべきこと、やりたいことにひたすら向かっていってください。君は2年次の頃からずっと上智の伝説を目指していたわけだけど、この学科には女の子が圧倒的に多いし、ましてや男子校出身の自分なんてやっていけるのか、なんて心配していたよね。でも、フランス語学科は授業も少人数制ですぐにみんなと仲良くなれるし、先生方も良い意味で生徒と距離が近く、とてもアットホームな雰囲気です。学科生だけが集まるイベントもあるしね。これは他の学科のみんなが羨むほどの特長だから、大学生活に心配は無用！あとは合格に向けて頑張るだけだ。もう一踏ん張り、悔いの残らないように！

イスパニア語学科

設置年:1958年
学生総数:317人(男性:115人/女性:202人)
教員総数:10人

「ことばと地域研究」の両面からとらえる



「西語史B」エデルミラ・アマート 教授担当

教育方針

イスパニア語を公用語とする地域は、ヨーロッパ(スペイン)、南北アメリカ大陸(メキシコほか16カ国)、カリブ海地域(キューバ、ドミニカ共和国、プエルトリコ自治領)、そしてアフリカ(赤道ギニア)というように世界的な広がりを見せています。さらに、国際連合の公用語の1つに数えられているほか、アメリカ合衆国においても、ヒスパニック人口の急増に伴い、イスパニア語とその話者の存在感は増大しつつあります。本学科では、イスパニア語およびイスパニア語圏についての専門的知見と高い異文化コミュニケーション能力を兼ね備え、世界を複眼的かつ相対的にとらえることのできる人物を育成することを目指しています。

カリキュラムの特徴・履修科目

外国語学部の学生は2つの「専攻」を選択して学ぶことになります。イスパニア語学科生の場合、「第一主専攻」は専攻語であるイスパニア語の〈専攻語科目〉と〈イスパニア語圏基礎科目〉で構成されます。ここでは、イスパニア語の運用能力(話す、聞く、読む、書く)を段階的に積み重ねると同時に、イスパニア語を使用する地域に関する基礎知識を多

	1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目(P.27参照)				
専攻語科目	●基礎イスパニア語Ⅰ	●基礎イスパニア語Ⅱ	●総合イスパニア語A	●総合イスパニア語B ●総合イスパニア語C
イスパニア語圏基礎科目	●イスパニア語圏研究入門	●西概史 ●西・西米文学史		
研究コース科目			北米研究コース ヨーロッパ研究コース ラテンアメリカ研究コース ロシア・ユーラシア研究コース 言語研究コース アジア研究コース 中東・アフリカ研究コース 国際政治論研究コース 市民社会・国際協力論研究コース	

■必修科目 ■主に外国語学部の開講科目によって構成 ■主に総合グローバル学部の開講科目によって構成 ※科目の詳細については、上智大学Webサイトのシラバスをご覧ください。

イスパニア語学科オリジナルWebサイト: dept.sophia.ac.jp/fs/hispanic/

面的に学んでゆきます。一方、「第二主専攻」は、各人が関心のある「研究コース」を選択し、開設科目群を履修していくことで、ある地域や学問分野についての系統的な学習と研究を行うものです。最終学年ではこうした研究の成果を卒業論文にまとめることが奨励されます。

科目紹介

◎専攻語科目

基礎イスパニア語Ⅰ

1年次生の必修科目。ABCから始めて、文法、会話、作文、講読の各分野におけるイスパニア語の基礎を徹底的に養います。

基礎イスパニア語Ⅱ

2年次生の必修科目。1年次に習得した基礎を確認しつつ、文法、作文、会話、講読の各分野における運用能力の向上を目指します。

総合イスパニア語A

3、4年次生の選択科目。スペインの文化や時事問題を題材として、ネイティブ教員が高度な作文技術の訓練を行います。

総合イスパニア語B

3、4年次生の選択科目。イスパニア語圏の政治、社会、文化を扱った専門的なテキストの講読や速読の訓練を行います。

総合イスパニア語C

3、4年次生の選択科目。ネイティブ教員が担当し、イスパニア語でのディベートやプレゼンテーション能力を磨きます。

◎イスパニア語圏基礎科目

イスパニア語圏研究入門

学科教員の輪講で行われ、イスパニア語圏に関する基礎知識を学びつつ、3、4年次の専門研究に必要な学問的スキルを習得します。

西概史

イスパニア語とイスパニア語圏を学ぶ学生が、その背景として最低限知っておくべきスペインとイベリア半島の歴史を概観します。

西米概史

先スペイン期からのイスパノアメリカの歴史を概観し、今日のイスパノアメリカ社会がいかにして形成されてきたのかを学びます。

西・西米文学史

スペインおよびイスパノアメリカ文化の精華ともいえる文学の歴史をたどるとともに、文学作品鑑賞の醍醐味を体験します。

教員・研究分野

教授 アントニオ・ルイズ・ティノコ
コーパス言語学、言語情報論、語彙バリエーション

教授 エデルミラ・アマート
スペイン語とバレンシア語の比較研究

教授 谷 洋之
メキシコ農業政策・開発思想を中心とするラテンアメリカ経済

教授 長谷川 ニナ
日本とラテンアメリカにおける文化的価値観の比較研究

教授 幡谷 則子
ラテンアメリカの現代社会—都市と農村の民衆組織と社会運動—

教授 吉川 恵美子
イスパノアメリカにおける民衆演劇の形成と展開

准教授 エレーナ・ガジェゴ
日本語・スペイン語翻訳論、日本・スペイン比較文学

准教授 西村 君代
スペイン語形態論、スペイン語文法記述

准教授 松原 典子
16、17世紀のスペイン絵画および彫刻

助教 内村 俊太
スペイン近世史、16世紀における歴史編纂



FAQ

Q. イスパニア語はどういう言語ですか？

A. イスパニア語はスペイン、中南米などで広く公用語として使われ、また米国でも大きな存在感を持っています。このように広大なイスパニア語圏ですが、イスパニア語そのものには驚くほどの共通性が保たれています。それと同時に、各地域には独自性もあります。イスパニア語は、「共通性と多様性」で広く豊かな世界とつながっている言語です。イスパニア語は発音体系が比較的シンプルで日本語話者にはなじみやすく、一方、英語とは異なる文法の特徴があるため、新鮮味をもって取り組むことができます。また、イスパニア語を学習すれば、ラテン語という共通の起源を有するフランス語、イタリア語、ポルトガル語といった他の言語にもアプローチしやすくなります。

高校生だった私への手紙

江浦 健太(3年)

高校生の自分へ

もし君が未来の自分を知ったなら、とても驚くのではないだろうか。今、高校で英語に苦戦している君が何年か経つと上智大学の外国語学部でイスパニア語を学んでいると言っても、君は信じないかもしれない。

今の君は受験に向けてやるべきことや覚えなければならないことで手一杯でしょう。勉強、将来、他にもさまざまなことで悩み、一人で抱え込んでいるかもしれません。しかしその悩みに真剣に向き合い最後まで走り切ったならば、その努力は必ず糧となりこれからの君を支えてくれます。

君から見れば大学は高い壁にしか見えないかもしれませんが。しかし大学は乗り越えるべき障害物ではなく、数多くの可能性を持つ未知の世界なのです。君なら目の前に広がる可能性を最大限に活用して、大切な仲間と共にかけがえのない時間を作っていただけることを確信しています。

「自分を信じて迷わず進め」。高校生の君に今の自分からアドバイスをするとしたら、おそらくこう言うでしょう。

ロシア語学科

設置年:1958年
学生総数:315人(男性:148人/女性:167人)
教員総数:8人

日本とロシアの“架け橋”となるに相応しい
幅広い知識と確かな語学力を習得する



「基礎ロシア語Ⅱ-2」井上 幸義 教授担当

教育方針

ロシア語の運用能力習得と、ロシアをはじめ旧ソ連邦のバルト諸国、ウクライナ、中央アジア諸国、南コーカサス諸国など15の独立国の地域研究を目的としています。ソ連邦崩壊後の混乱から立ち直り、未曾有の経済発展を遂げ、新生国家として新しい世界秩序の中に位置付けられるにいたったロシアの現実に精通し、ロシアの人々の文化や精神性を理解し、特に、日本とロシア、世界との関係を自ら積極的に構築できる人材を育成し、優れた実務家、ロシア・ユーラシア地域研究の専門家を輩出することを目指しています。

カリキュラムの特徴・履修科目

1～2年次の「基礎ロシア語」は、文法や講読、ネイティブ教員による会話など週6回540分の授業からなり、2年間でロシア語の基礎を総合的に徹底して学びます。3～4年次では、「ロシア語文法研究」「翻訳法」「通訳法」「アクティブ・コミュニケーション」「原書講読」「文献研究」など中・上級のロシア語研究科目を学び、即戦力となる高度なロシア語力・コ

ミュニケーション能力を身に付けます。また1年次に、ロシア・ユーラシアの政治、経済、社会、文化、芸術などをテーマにしたロシア・ユーラシアに関する「地域研究方法論」「文化入門」「地域研究入門」などのロシア語圏基礎科目を履修します。さらに、9つの研究コース(P.109～110参照)から1つを選んで専門研究を行います。たとえばロシア・ユーラシア研究コースではロシア・ユーラシアの国際関係や経済、芸術など、言語研究コースではロシア語翻訳・通訳・文法・語史などを学び、研究できます。

科目紹介

◎専攻語科目

基礎ロシア語Ⅰ-1・ⅡおよびⅡ-1・Ⅱ

ロシア語およびロシア地域の研究に必要な基礎的語学力の習得を目標とします。1・2年次生ともに、1週間に6回の授業を受けます。

ロシア語通訳法1・2

基礎的な通訳スキルを学び、語学運用力を高めます。クイックレスポンス、言い換えなどの通訳訓練も紹介します。

ロシア語翻訳法1・2

オリジナル言語(日本語の原文)をターゲット言語(ロシア語)に翻訳することを目的とします。さまざまなジャンルの教材を用います。

ロシア語アクティブ・コミュニケーション1・2

ロシア語だけを使ってコミュニケーションをはかります。特定の話題に関する意見や経験の発信、対話やスキット練習を行います。

ロシア語文法研究1・2

ロシア語の語がどのように結びついて文が構成されるかという法則性(シンタクス)や、ロシア語の動詞の特性を学びます。

ロシア語文献研究A-1・2

現代ロシアの経済・ビジネス、軍事・安全保障や政治・外交に関連する文章を読み、これらの分野の基礎的知識を獲得することを目的とします。

◎ロシア語圏基礎科目

ロシア語圏基礎科目はロシア語学科の必修科目です。2年次秋学期末にロシア・ユーラシア研究コースを第二専攻または副専攻として選択する学生にとっては、その基礎となる科目でもあります。

ロシア地域研究方法論

パソコンのロシア語入力スキル、情報リテラシー、メディアリテラシーなどを学びます。

ロシア・ユーラシア文化入門1

ロシア・ユーラシア地域の文学、美術、演劇、映画などをオーディオ・ビジュアル教材なども使いながら学びます。

ロシア・ユーラシア地域研究入門1

ロシア・ユーラシア地域の歴史、政治、経済などの基礎を学びます。



教員・研究分野

教授 井上 幸義

ロシア語学とロシア文学の境界領域について研究

教授 上野 俊彦

ソ連邦崩壊後のロシア政治の民主化過程について研究

教授 原 求作

ロシア語史

教授 村田 真一

ロシア演劇とロシア文化に関して、国内外の多数機関と共同で研究

教授 吉住 エレナ

ロシアのアイコン、ロシア語教授法について研究

准教授 スヴェトラナ・ラティシェヴァ

翻訳、日露文化比較研究が専門。作文による研究・教育活動を実践

准教授 安達 祐子

現代ロシア企業の発展過程、ロシアにおける政治とビジネスの関係を分析

助教 秋山 真一

現代ロシア語の統語論およびコーパス言語学

FAQ

Q. ロシア語は難しいと聞きますが。

A. ロシア語は、英語と違って語順が比較的自由で動詞や名詞がさまざまに変化するので難しいといわれています。ただ、日本語も語順が柔軟なので、日本人の場合、ある段階を超えると急に理解できるようになり、おもしろくなってきます。正確で高度な語学力を身に付けるためには、基礎段階の学習がもっとも重要です。授業では、学科手作りの教科書も使用するほか、LL教室、AV機器・ビデオ教材なども利用します。また毎回のよう宿題を課し、提出された宿題は教員が丁寧に添削して返却し、必要な場合には、個別指導やアドバイスをします。補習や発音矯正など時間外の個別学習にも力を入れ、基礎的な語学力を徹底的に訓練します。3・4年次には翻訳・通訳などのプラクティカルな科目をはじめ、ロシア語学、ロシア文化、ロシア文学、ロシア経済、政治・外交などの専門科目を受講することができます。

高校生だった私への手紙

✉ 遠藤 美穂子(3年)

こんにちは。今頃、一般と公募受験の対策に励んでいる頃でしょうか。オープンキャンパスで公募受験の筆記試験の過去問を入手して、中を開いた時の衝撃は今でも覚えています。当時はほとんど解けませんでした。無謀な挑戦に何度諦めようと思ったことでしょう。それでも、一般の勉強と同時に、小論文面接の対策、そしてロシアについてひたすら勉強しました。もちろん、専門で教えてくれる人はいなく、完全に独学でした。歴史の教科書では何一つ足りず、資料集はもちろん、新聞、新書、歴史書、文庫本、あらゆるものを読み漁って勉強しました。正直辛かったです。でも、わたしにはこれしかないと思って必死に頑張りました。その甲斐あって、今はロシア語学科で勉強しています。当時の頑張りは今でも誇ることができますよ。想定はしていましたが、大学も大変です。テストはどの学科よりも多いし、予習も欠かせません。しかし、高校生の自分が大学でしかたかった“学び”を確実に提供してくれる場です。今はとてもつらい時期かもしれませんが、でも、現在のわたしのここでの生活と学びがあるのは、今これを読む貴方の努力のおかげです。一番大切なことは、支えてくれる周りの人々への感謝の気持ちを忘れないこと。応援しています。

	1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目(P.27参照)				
専攻語科目	●基礎ロシア語Ⅰ-1・Ⅱ	●基礎ロシア語Ⅱ-1・Ⅱ	●ロシア語通訳法1・2 ●ロシア語翻訳法1・2 ●ロシア語文法研究1・2	●ロシア語アクティブ・コミュニケーション1・2 ●ロシア語原書講読1・2 ●現代ロシア語研究1・2 ●ロシア語文献研究A-1・2 ●ロシア語文献研究B
ロシア語圏基礎科目	●ロシア地域研究方法論 ●ロシア・ユーラシア文化入門1 ●ロシア・ユーラシア地域研究入門1	ロシア語通訳法入門		
研究コース科目	北米研究コース ヨーロッパ研究コース ラテンアメリカ研究コース ロシア・ユーラシア研究コース 言語研究コース アジア研究コース 中東・アフリカ研究コース 国際政治論研究コース 市民社会・国際協力論研究コース			

各コースの詳細はP.109～110を参照

■必修科目 ■主に外国語学部の開講科目によって構成 ■主に総合グローバル学部の開講科目によって構成 ※科目の詳細については、上智大学Webサイトのシラバスをご覧ください。

ロシア語学科オリジナルWebサイト: dept.sophia.ac.jp/fs/russian/

ポルトガル語学科

設置年:1964年
 学生総数:351人(男性:149人/女性:202人)
 教員総数:6人/嘱託教員:3人

フロンティア・スピリッツにも似た、
 語学・地域研究の叡智を学ぶ

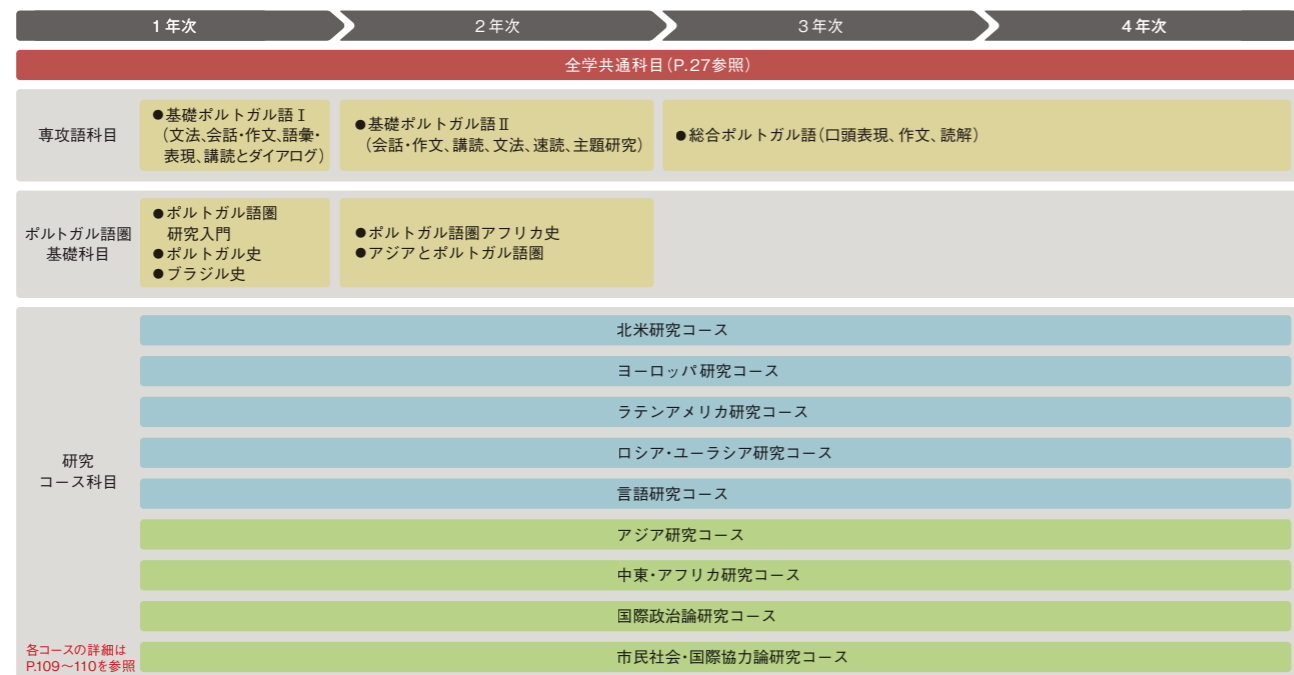


「演習(ルソフォニア研究2)」市之瀬 敦 教授担当

教育方針

異なる文化の人々とのコミュニケーションには、言語の習得だけでなく、言葉の背景にある社会、文化、歴史などに関する基礎知識を身に付けることが重要です。そのためポルトガルやブラジルだけでなく、ポルトガル語圏地域を総合的に理解します。本学科で培った能力は、他の言語圏へアプローチする際にも役立ちます。学生に求めるものは「未知なる

もの」に挑戦する精神です。大きな変化を遂げつつある現在の国際社会へ飛び出す姿勢は、500年前に大航海時代を切り拓いたポルトガル人航海士の精神に通じるものがあります。ポルトガル語学科ではビジネス界だけでなく、NGOやNPOなど幅広い分野で活躍できる人材の育成を目指しています。



■必修科目 ■主に外国語学部の開講科目によって構成 ■主に総合グローバル学部の開講科目によって構成 ※科目の詳細については、上智大学Webサイトのシラバスをご覧ください。

ポルトガル語学オリジナルWebサイト: dept.sophia.ac.jp/fs/luso-brazilian/

カリキュラムの特徴・履修科目

1~2年次の「基礎ポルトガル語」でポルトガル語の基礎を徹底して学びます。ポルトガル語圏はポルトガル、ブラジル、そしてアフリカやアジアの複数の国・地域に広がっているため、各地域の歴史も概観します。3~4年次にはポルトガル語の高度な運用能力の向上を目指す実践的科目群と並行して、ヨーロッパ研究、ラテンアメリカ研究、言語研究など9つの研究コース(左頁下)から1つを自分の関心に応じて選択し、その研究コースに用意される専門性の高い科目群を中心に学んでいきます。4年次には少人数制の「演習」で4年間の学問の集大成として卒業論文・卒業研究に取り組みます。

科目紹介

◎専攻語科目

基礎ポルトガル語Ⅰ

文法、会話・作文、語彙・表現、講読とダイアログに分かれ、ポルトガル語の基礎知識をみっちり勉強します。文法では基礎文法をしっかりと学び、会話・作文、表現、ダイアログでは、その知識を応用し、コミュニケーションを重視しながらの授業展開となります。

基礎ポルトガル語Ⅱ

会話・作文、講読、文法、速読、主題研究に分かれます。会話・作文では、さらに高度な四技能の表現力を身につけます。講読では文章の精読、文法ではポルトガル語の難解な文法項目を学び、速読では新聞記事などの要旨を捉えることを目標とします。主題研究ではポルトガル語で短いプレゼンテーションを試みます。

総合ポルトガル語

3・4年次の選択必修です。学生の興味にそって履修するようになっていますが、基本的には1・2年次で学習したすべての基礎を駆使し、実践的な応用力を身につけることを目標とします。自分の言いたいこと、考え方を聴衆の前で発表したり、難解な文章の精読に取り組んだり、授業の形態はさまざまですが、会話、作文、読解などの技術を取り込んだ総合的な語学教育を目指します。

◎ポルトガル語圏基礎科目

ポルトガル語圏研究入門

地域研究の視座を学ぶとともに、ブラジルを中心としたポルトガル語圏諸国に関する文献資料・データ収集、レポート執筆、プレゼンテーション等の基礎的技法を習得します。

ポルトガル史

建国から現代までのポルトガルの歴史について映像資料を利用しながら学んでいきます。

ブラジル史

植民地時代から現代に至る500年余のブラジル史の大きな流れを学ぶとともに、ブラジルが歴史的にどんなプロセスを経て今に至ったのかについて考えます。

ポルトガル語圏アフリカ史

ポルトガル語圏アフリカを学ぶための入門的な授業です。アフリカ全体の歴史を追うとともに、ポルトガル語圏の5つの国々(アンゴラ、モザンビークなど)の事例も取り上げていきます。

アジアとポルトガル語圏

アジアのポルトガル語圏(マカオと東ティモール)におけるポルトガルの影響、ブラジルおよび日本における日系社会の様相を考察します。ポルトガル語とアジアの深いつながりが理解できます。

教員・研究分野

教授 市之瀬 敦
 ポルトガル語の変異、現代ポルトガル社会事情などについて研究

教授 エレナ・ヒサコ・トイダ
 ブラジル文学、翻訳論を中心に、ブラジル人の喜怒哀楽や気質を研究

教授 マウロ・ネーヴェス
 ラテンアメリカやアジアのポップカルチャーに見る社会情勢について研究

教授 子安 昭子
 国際関係論、ブラジルの政治と外交を研究

准教授 田村 梨花
 ブラジル地域研究が専門。ブラジル貧困地域のコミュニティ教育を研究

准教授 矢澤 達宏
 アフリカの政治およびブラジルの黒人・人種間関係などについて研究

講師 ルシーラ・エツコ・ギボ ※
 言語学を専門とし、ポルトガル語と日本語の接触現象について研究

講師 ニウタ・ジアス ※
 児童教育学が専門。在日ブラジル人児童の教育問題を研究

講師 内藤 理佳 ※
 マカオの人々の民族性やアイデンティティーについて研究

FAQ

Q. 日本とポルトガル語圏世界の関連は?

A. まず、ポルトガルとの付き合いは古く、16世紀の南蛮貿易時代にさかのぼります。近年では、EUのメンバー国として、ポルトガルは欧州統合で重要な役割を担うことも期待されています。したがって、日本のEU理解、そして対EU関係の発展促進のためにも、ポルトガルについての知識を深めておく必要があるでしょう。最大のポルトガル語圏であるブラジルは、およそ150万人という海外最大の日系人社会を擁しますが、日本にとって、経済面においても、貿易・投資・金融面での重要なパートナーとなってきました。その他のポルトガル語圏、アフリカのアンゴラ、モザンビーク、アジアの東ティモールなどにおいても、日本の企業やNGOの活動がしだいに活発になっています。

高校生だった私への手紙

▼ 牧野 凌平(4年)

他者を知り、自己を知る。
 「大学入試に合格する」。高校3年生のあなたにとって、これが今の一番の目標なのではないでしょうか。外国語教育に定評のある上智大学で語学を学びたい、ただそれだけの理由でがむしゃらに受験勉強をしているのだと思います。それでは、外国語を学ぶ手段が他にある中で、あなたはなぜ大学進学を目指しているのでしょうか。上智大学に入学すれば語学はもちろん、興味のある学問に専念することができます。しかし、人との交流や学問を通して多種多様な価値観に触れられるのも、大学に通う魅力であると私は考えます。特にポルトガル語学科では、さまざまなバックグラウンドをもった先生方や学生が多く集まっています。人それぞれ考え方が違っても、互いに優秀をつけることはありません。それぞれ確固たるモチベーションを抱えているからです。一単なる好き嫌いだけではなく、相手はどうしてそのような考え方を持つか、その根底にあるものは何なのか、はたまたそれを自分自身はどのように捉えるか。新たな価値観に触れられると同時に、客観的に自分を顧みることができるのも、大学に通うメリットの一つでしょう。「どうして進学を希望したのか」。この裏付けを明確にすることで、受験勉強もより一層力が入ると思います。頑張ってください。

研究コースで自分の専門を究める

体系的な専門研究を通して、課題発見力、問題解決力を養い、世界諸地域への深い理解と複眼的な思考力を獲得します。

導入

外国語学部が開講する「コース共通導入科目」と各研究コースが開講する「導入科目」があります。このステージでは、言語学や歴史学、政治学、社会学など学問分野の方法論、調査の仕方、論文の書き方など研究上の技法、世界諸地域に関する幅広い基礎知識などを、主に1～2年次に身につけます。

コア

このステージでは、「導入」ステージで培った方法論や基礎知識を土台に、各研究コースが用意するより専門性の高い科目を履修していきます。多様な学びを通じて知識を深め、自分の問題関心をさまざまな角度から捉える複眼的な視点を養います。主に2～4年次で履修します。

演習

自分の研究テーマを追究し、学んだことを自分のことばで表現するステージです。文献を通じて学んだこと、調査したことを発表し合い、切磋琢磨する場です。専門研究の経験豊かな担当教員が“伴走者”としてサポートします。「卒業論文・卒業研究」という一つの作品を作り上げる喜びを味わってください。

※■の研究コースは主に総合グローバル学部の開講科目によって構成されています。
※導入、コア、演習に記載している科目名は一例です。

■北米研究コース

アメリカ合衆国とカナダを対象地域とし、歴史学、心理学、政治学、経済学、社会学など様々な学問分野から研究を行います。また、北米と関係が深いメキシコ、アジア・太平洋地域の科目も用意し、一つの学問分野や国にはとらわれない「総合的な知性構築」を目指します。

- 導入** ●北米研究入門A ●北米研究入門B ●Introduction to American Society
- コア** ●アメリカ政治論 ●Topics in American History ●American Women's History ●Psychology of discrimination
- 演習** ●American History ●American Studies ●Globalization and Migration

■ヨーロッパ研究コース

多様な民族、言語、宗教、文化を内包するヨーロッパ。本コースではそのヨーロッパ全体や域内の特定の国、サブリージョンにおける様々な事象、さらにはEUに関する問題を、国家や国境といった枠組みにとらわれない俯瞰的視点から深く掘り下げて学び、研究していきます。

- 導入** ●ヨーロッパ地域研究入門 ●ヨーロッパ史概論 ●ヨーロッパの宗教・社会・文化 ●ヨーロッパ政治経済入門
- コア** ●Contemporary European Cinema ●ヨーロッパの社会と言語 ●EUの現在と過去 ●近現代ポルトガル研究
- 演習** ●シェイクスピア演劇 ●ドイツ社会研究 ●フランス宗教学 ●西美術

■ラテンアメリカ研究コース

ラテンアメリカは世界でも類を見ない多様性を誇る地域です。先住民固有の文化に加え、ヨーロッパ、アフリカ、アジアとほぼすべての地域の文化が混雑しています。個性あふれる文化、豊富な資源などから日本との関係も深まりつつある地域の過去と現在を深く掘り下げます。

- 導入** ●ラテンアメリカ地域研究入門 ●西米概史 ●ブラジル史
- コア** ●西・西米文学史 ●ブラジル政治論 ●ラ米経済概論 ●ブラジル社会論
- 演習** ●西・西米演劇研究 ●ブラジル政治経済研究 ●ラ米社会研究 ●ポップカルチャー研究

■ロシア・ユーラシア研究コース

ロシア・ユーラシア地域について専門的かつ総合的に学ぶことのできる本研究コースでは、高度なロシア語力を基礎に、ロシアをはじめとする旧ソ連地域の歴史・政治・経済・社会・文化に精通し、日本と同地域の関係を自ら構築できる優れた実務家・専門家を育成します。

- 導入** ●ロシア・ユーラシア地域研究入門 ●ロシア・ユーラシア文化入門
- コア** ●ロシア政治・外交 ●ロシア・ユーラシアの経済 ●ロシア芸術(音楽) ●ロシア・ユーラシアの国際関係 ●ロシア史
- 演習** ●ロシア政治・外交 ●ロシア経済 ●ロシア文学 ●ロシア文化

■言語研究コース

本コースは、人間にのみ備わる言語能力の科学研究を通して人間精神の本質に迫り、日本語・諸外国語に関する実証的研究を通して言語の普遍性と多様性を考え、また、社会、歴史、文化、教育など人間の様々な営みにおける言語の機能・役割を考察することを目的とします。

- 導入** ●言語学概論 ●日本語学概説 ●Introduction to the Study of Language ●応用言語研究入門
- コア** ●文法論 ●言語処理入門 ●言語聴覚障害学概論 ●翻訳論
- 演習** ●日本語学 ●外国語教育学 ●言語聴覚障害学 ●翻訳論

■アジア研究コース※

私たちに身近なアジアについて知的関心と関わりを深めることができるように、主に東南アジアと南アジアを対象に、そこに住む人々の歴史、文化、社会、宗教について、地域研究とグローバル・スタディーズを連携させながら学び、方法論も身につけます。

- 導入** ●グローバル・ヒストリー ●東南アジア研究概説 ●南アジア研究概説 ●東アジア研究概説
- コア** ●東南アジア史 ●東南アジア政治社会論 ●東南アジア文化論 ●南アジアの宗教と思想
- 演習** ●アジア研究(A～F)

■中東・アフリカ研究コース※

中東やアフリカは日本と深い結びつきがあるだけでなく、有力な宗教のひとつであるイスラームは様々な影響を世界に与えています。現地密着型の地域研究とグローバル・スタディーズを連携させながら、両地域の歴史、文化、社会、宗教について学び、方法論も身につけます。

- 導入** ●グローバル化の人類学 ●グローバル化と宗教 ●中東研究概説 ●アフリカ研究概説
- コア** ●中東社会論 ●東方イスラーム世界論 ●アフリカ史 ●イスラームとジェンダー
- 演習** ●中東・アフリカ研究(A～E)

■国際政治論研究コース※

今日の国際社会の政治は極めて複雑であり、安全保障と経済が密接に結びつく一方、国際関係と国内の政治経済も日常的に共振しています。日米中といった主要国の外交を含めた国際政治分野を深くかつ体系的に学ぶことで、国際政治の構図と問題の本質を見抜く力を培います。

- 導入** ●国際関係論概説 ●グローバル化と政治学 ●平和学
- コア** ●国際政治学 ●グローバル・ガバナンス論 ●日本外交論 ●中国政治外交
- 演習** ●グローバル・国際研究 ●国連と紛争解決 ●外交政策 ●国際制度論

■市民社会・国際協力論研究コース※

経済的困窮、格差、先住民、部族間衝突、地球環境問題、インターネットとソーシャルメディア、ボランティア活動、移民問題、市民による反対運動など、グローバルな課題や地球レベルで起こる出来事に対して「人びと」の視点から分析し、国際社会に働きかける人を創ります。

- 導入** ●市民社会・国際協力論概説 ●グローバル化と経済学 ●グローバル・ヒストリー
- コア** ●国際政治経済論 ●グローバルイノベーションと市民社会 ●グローバル化と発展途上国 ●特講(国際人口移動)
- 演習** ●国際協力論 ●国際教育開発論